

令和4年天皇誕生日祝賀行事における林肇駐英国日本国大使による挨拶（仮訳）
（令和4年2月23日）

ご列席の皆さま

本日は、天皇誕生日祝賀行事にご参加いただき、心より御礼申し上げます。昨年は、深刻なパンデミックの中で、オンラインでの開催という方法以外に可能性がありませんでした。今年は、現下の感染状況を踏まえ、例年より規模を4分の1程度と大幅に縮小したものの、天皇陛下のお誕生日当日に、ゲストの方々を直接お迎えしてお祝いできることを、妻も私も大変嬉しく思います。

本日、天皇陛下は62歳になられました。宮中では、同じく出席者を絞って「祝賀の儀」が開催されました。2019年5月1日のご即位以来、世界の平和と繁栄に心を寄せられている陛下に対し、皆様とともに益々のご健康を祈念できれば幸いに存じます。アジア担当のミリング外務・開発閣外大臣から、この後、祝賀のご挨拶を頂けることに感謝いたします。

ご列席の皆さま

日英両国は、特に19世紀後半以降、王室と皇室を含め、長い交流と友好の歴史を築いてきました。また、日英は両国とも島国であり、民主主義や法の支配、人権などの基本的価値を共有し、力による現状変更の試みへの反対で協力しています。アジア及び欧州のそれぞれ最も緊密な経済及び安全保障上のパートナーとして、着実に協力を積み重ねてきました。そのパートナー関係は、戦略的であると同時に、私は必然的なものだと信じております。

今年は、日英同盟条約が結ばれて120周年に当たります。1902年1月30日にここロンドンでこの同盟に調印したのは、外務大臣の第5代ランズダウン侯爵と、偶然にも私と同じ名字の駐英日本公使・林董でした。私自身は、昨年のお誕生日の前に着任し、ちょうど1年を迎えたところです。振り返れば、新型コロナウイルスによる国難や制約はありつつも、日英関係においては飛躍的な前進を見せた1年でありました。

まず何より、昨年は、英国がG7及びCOP26の議長国を務め、多国間主義外交やパートナー間の協力関係を再活性化した年でした。この間、日本から総理が2回、外務大臣が2回訪英しました。岸田文雄総理や林芳正外務大臣にとって、英国は就任以来、初の外遊先ともなりました。外交・安全保障、経済・ビジネスから、コロナ対応や気候変動対策をはじめグローバル課題への対応に至るまで、幅広い分野において、高いレベルでの日英の協力関係を強化することができました。

英国が昨年3月に発表した「安全保障、防衛、開発及び外交政策の統合的見直し」が示す「インド太平洋への傾斜」は、そうした日英の協力関係を更に発展させるための道筋をつけるものでした。日本と英国は、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けて協力してきました。英国が今後10年間の戦略として、この取組を一層加速させると表明したことを歓迎いたします。

とりわけ、昨年9月の英空母「クイーン・エリザベス」率いる空母打撃群の日本寄港や12月に公表した将来戦闘機に係る日英協力の追求は、両国間の安全保障・防衛の協力関係が近年飛躍的に深化していることを象徴しています。そのような中で、本日、英空軍室内楽団に、両国の国歌を素晴らしい形で演奏いただけたことには感慨深いものがあります。英空軍関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

昨年1月に、EU離脱後の日英の新たな経済枠組である日英EPAが発効しましたが、一年を経過して円滑に協定が実施されていることを歓迎いたします。これにより、日英双方の企業に対して、EU離脱後も英国においてスムーズにビジネスを続けていくための予見可能性と法的安定性をもたらすことが出来ました。明24日には、東京において、トレブリアン国際貿易大臣と林外務大臣との間で、日英EPA合同委員会が初めて開催される予定です。

加えて、英国のCPTPPへの加入手続が進展していることを歓迎します。これが実現すれば、世界経済にとっても、日英経済関係の強化の観点からも、大きな意義があります。日本が昨年のTPP議長国として、また英国加入作業部会の議長国として、英国の加入に向け支援できたことを嬉しく思います。

更に、昨年11月に開催されたCOP26では、岸田総理とジョンソン首相がグラスゴーにて対面で会談し、同分野を特に重視する日英両国で、脱炭素化に向けたグリーン・エネルギー、グリーン・テクノロジーやグリーン・ファイナンス等、様々な協力を進展させることを確認しました。

2019年にはラグビーW杯が、そして昨年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日英両国の選手の大活躍もあって、英国における日本への関心はこれまでになく高まっています。また、世界中が厳しい状況にある中、スポーツの力が世界を結びつけるとともに、英国ストークマン・デビルを発祥の地とするパラリンピックでは、共生社会の実現を強く訴えることができました。

「日英文化年間」は、2017年に、当時の日英両国首脳、すなわち安倍晋三総理とテリーザ・メイ首相の合意に基づき、2019年から開催され、昨年末で幕を閉じました。同季間に1,300件もの行事が行われ、オンラインでの取組も織り交ぜて、コロナ禍でも大いに盛り上がりを見せました。大英博物館、キュー王立植物園、ヴィクトリア・アルバート博物館、オックスフォード大学アシュモレアン博物館などで日本文化関連の特別展が開催されました。また、桜植樹プロジェクトも各地に展開され、総計7,000本にのぼる桜の植樹が行われたか、又は行われつつあります。改めて、同年間にご協力いただいた方々に心から御礼申し上げます。

ご列席の皆さま

このような成果を礎に、日英同盟締結120周年に当たる2022年も、日英両国の関係を、先ほど触れたあらゆる分野でさらに拡大・深化させていきたいと、引き続き、皆様のご支援とご協力をお願いしたいと思います。

ご清聴有り難うございました。